

平成 28 年 4 月 1 日

南の風 177

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

いずれにしてもオールコートマンツーマンプレスディフェンスの指導は、今後指導者の課題となるものと思います。各チームのコーチが基準規則に準拠したマンツーマンプレスを研究され、技術の発展に寄与されることを期待します。

さて先日、指導者クリニックの会場で、何人かのミニバス指導者の方と話した時の話題についてです。『プレイヤーズファースト』についてです。

読者の方もよく聞くフレーズだと思います。直訳すれば「選手第一主義」となるのでしょうか。キッズサッカーでさかんに言われています。JBAの会長川淵 三郎氏は、2月22日付の通知文の冒頭で、マンツーマンディフェンスの推進について、その目的は、「プレイヤーズファースト」を尊重し、目先の勝利にとらわれない長期的視点での指導を行うことで個々の技術を高め、子どもたちが将来にわたってバスケットボールを楽しむ素地を育成することです。(以上部分抜粋)と述べています。

「プレイヤーズファースト」については、たくさんの書籍やサイトで紹介されています。その中から1つ取り上げてみます。「サカイク」というジュニアサッカー(少年サッカー)の保護者向け情報サイトの大塚 一樹氏の連載、『子どもを変える、大人が変わる「プレイヤーズファースト」入門』からです。

大塚氏は、育成年代から欧州サッカーまでカテゴリーを問わず、サッカーを中心に取材活動を行い、現在は、スポーツだけでなく、多種多様な分野の執筆、企画、編集に携わっています。編著には、『欧州サッカー6大リーグパーフェクト監督名鑑』、全日本女子バレーボールチームの参謀・渡辺啓太アナリストの『なぜ全日本女子バレーは世界と互角に戦えるのか』を構成しています。

以下引用です。

日本サッカー協会(JFA)が発行する10歳以下の選手指導のガイドラインの中に「JFAキッズサッカー指導のフィロソフィー」というのがあります。サッカーのプレー人数にちなんだ11項目の10番目に「プレイヤーズファースト!」の文字があります。プレイヤーズファースト!何が選手にとって一番いいのか。何か問題が生じたときにはこのスタートポイントに立ち返りましょう。

子どもたちのサッカーは子供たちのものです。当たり前のことですが、特に回りの大人はその当たり前前の基本を見失うことがあります。うまくプレーできない選手、失点をした選手を怒鳴りつけるコーチを見たとき、あなたはどんな気持ちになるでしょうか。「走れー、こっちにパスパスー、もっと走れー」とピッチに響き渡る声で叫んでいるお母さんを冷静な第三者として見たときあなたはどんな気分になりますか?

おそらくコーチやお母さんに話を聞けば「子どもたちのために」精一杯真剣にやっているという答えが返ってくるでしょう。でも、それって本当に子どもたちのためでしょうか?勝ちたいのはコーチ、よその子にまけたくないのはママ、子どもたちはそんな気持ちを敏感に感じとっています。

ここまで如何でしょうか。ミニバスケットボールの活動にも共通することではないでしょうか。続きの紹介は次号にしますが、皆さんもぜひ「プレイヤーズファースト」についてお考えください。